▲親子で田植えを楽しむ参加者

## 田舎の魅力を肌で感じよう

### まるごと田舎体験

6月25日、まるごと田舎体験事業推進協議会（阪井義則会長）は町ふるさとセンター近くの水田で「まるごと田舎体験事業」を開催しました。当体験は、田舎での交流を通じて食の大切さなどを学ぶために実施しており、今回は町内外から4家族19人が参加。参加者は泥だらけになりながら手植えを体験したり、トッパ丸とわた菓子づくりを楽しむなど田舎の魅力を存分に堪能しました。稲刈りは10月中旬を予定しています。

## 大きくおいしく育ちますように

### がまだす隊×南関こどもの丘保育園

若手農業者グループがまだす隊（森 寿 隊長）と南関こどもの丘保育園（菅原 裕 園長）の園児が6月、イモの苗植えと田植えを体験しました。当体験は食育の一環として毎年実施されており、イモの苗植えは年中・年少児、田植えは年長児が体験。園児は隊員に教わりながら元気いっぱいに苗（稲）を植えました。森隊長は「収穫まで大切に育てたい。農業に関心をもつきっかけになってくれれば」と笑顔で話しました。秋には収穫を行い、焼きイモやおもちにして食べます。

▲一つひとつ丁寧に植えます

▼初めての田植えに熱中

▶表彰状を授与される野田さん（左）

## 行政相談活動に大きく貢献

### 全国行政相談委員連合協議会会長表彰

南関町の行政相談員である野田泰臣さん（関町）が公益社団法人全国行政相談委員連合協議会会長表彰を受賞し、5月22日に熊本県行政相談委員全体会議で表彰状の授与が行われました。行政相談員は、総務大臣から委嘱をうけ、住民から行政サービスに関する意見や要望などの相談を受け付け、解決のためのお手伝いを行います。今回の受賞に野田さんは「評価いただき光栄に思います。今後も皆さんの身近な相談相手として尽力したい」と話しました。

## 新規就農者を支援

### 肉牛部会 牛ふん堆肥寄贈

7月4日、町の肥育牛農家で構成する「肉牛部会」の部会長・猿渡眞一さんと会員の原秀彰さんが町長を訪問し、町の新規就農者へと、牛ふん堆肥90袋を寄贈しました。同会は堆肥の地産地消や需要拡大の手助け、農家の支援を目的に毎年新規就農者へ堆肥を寄贈しています。猿渡部会長は「施設園芸が少ない町では堆肥の活用が低いが、肥料高騰などの影響で堆肥の活用が見直されている。今後は家庭用堆肥や耕畜連携に活用できるような仕組みを整えることが大事」と話しました。

▲左から、佐藤町長、猿渡部会長、原さん





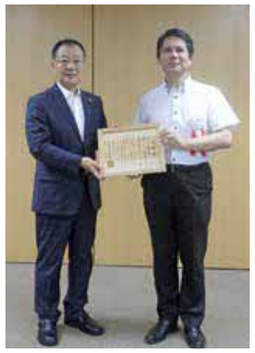
## 児童の環境活動に表彰が贈られる

### 二小 くまもと環境賞受賞

南関第二小学校（古川浩美校長）は6月27日、熊本県が認定する「第32回くまもと環境賞」を受賞しました。同賞は、豊かな環境の保全に取り組む団体や個人を表彰するもので、5つの部門の中から今回「環境教育賞奨励賞」を受賞しました。同校では環境学習の一環として4年前から4年生がホタルの飼育・放流に取り組んでおり、幼虫を教室の水槽で半年間飼育し、久重の「ホタルの里公園」へ放流しています。また、約20年前に地域のホタルまつりで踊られた盆踊り「夢蛍音頭」を地域の方から受け継ぎ、学習発表会で披露するなど熱心に環境活動に取り組んでいます。

代表して県庁で表彰を受けた村岡教頭は「4年生が継続して学習を積み上げてきた環境保全に関する取組が認められてうれしい。地域や保護者、エコアくまもと及び鹿島環境エンジニアリングの皆さんに感謝し、これからもこの取組を継続していきたい」と表彰を喜びました。

▲環境保全に取り組んだ4～6年生の皆さん



◀田嶋副知事（左）、村岡教頭（右）

▼小国杉を使った表彰状

▲心肺蘇生法（胸骨圧迫）を体験する生徒

## もしものときに動ける知識と技術を

### 中学校 救命講習会

6月14日、南関中学校（平井一郎校長）の武道場で救命講習会が開催され、2年生51人が救急救命の基礎知識を学びました。総合的な学習の一環として、いざ急病患者に遭遇した際に落ち着いて救命処置に対応できるように実施。講師として南関分署の職員や女性消防隊が指導にあたりました。春野佑斗さんは「胸骨圧迫は体全体を使ってしっかり力を伝えることが大事。外出したとき倒れている人がいたら率先して助けたい」と話しました。

## 情報を正しく活用しよう

### 二小 メディアリテラシー教室

7月13日、南関第二小学校（古川浩美校長）で「つながる!NHKメディアリテラシー教室」が開かれ、6年生15人がオンラインで、全国各地の小学生と情報の読み解き方や発信の方法ついて考えました。この教室は、メディアリテラシーを高めるためにNHKが小学5･6年生を対象に実施し、今回は熊本、沖縄、神奈川（横浜･川崎）の4つの小学校が参加。アナウンサーの進行に沿って、学校紹介VTRの発表やお店紹介用の写真、画像の加工等について意見を交換し、他の学校の考えなども受け入れながら学びを深めました。園林華凛さんは「それぞれの学校で違う意見や見方があって面白かった。情報を発信する時には相手に意図がうまく伝わるように工夫したい」と話しました。

▲他校と意見を交換する児童